

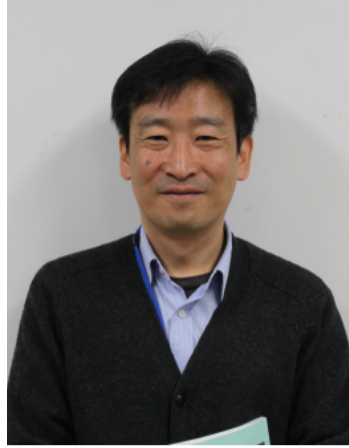
# 東北大学医学部保健学科

## 同窓会新聞

発行人 菅原明  
 発行所 東北大学医学部保健学科  
 仙台市青葉区星陵町2の1  
 編集人 東北大学医学部保健学科同窓会新聞編集委員会  
 編集委員 長谷川大樹、平川奈津希、武石陽子、西山真美

### ご退官の先生のご挨拶

医用画像工学分野  
 教授 小山内 実 先生



2019年1月31日付で東北大学を退職し、2月1日付で大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻医用物理学講座教授に着任致しました。こちらに赴任したのが、2009年4月ですから、ほぼ10年お世話になったこととなります。この保健学科に赴任するまでは、理学部、医学部医学科、工学部に所属しており、保健学科というところのイメージが全く無く、どのような学生が居るのか、どのような教員として振る舞うのが良いのか想像もつきませんでした。初年度は授業・実験の多さにびっくりしましたが、まずは教育が最も重要な教員の仕事ですので、授業の準備に専念しました。私が担当したのは、工学系の授業でしたが、理学部物理学出身とはいえ、自分が学生の時に授業で習っ

たことが無い内容がほとんどでしたので、ほぼ毎日授業の準備をしていただくを思い出します。その内容は、学生さんには面白くなかったと思いますが、基礎をしっかりと学び、その後の応用が効くような授業を構築したつもりです。

とは言え、大学教員は授業だけをしていてもいけませんので、研究体制も徐々に整えていきました。その矢先2011年3月11日東日本大震災が起こりました。この時、研究室の被害はそんなに大きくはなかったのですが、そのままの日くらいには普通に生活できるのだらうと思いましたが、その後どのような生活になったのかは、皆さんご存知の通りです。しかし、この時、放射線技術科学コースの教員や大学院生の皆さんの協力は体制は素晴らしいもので、あの大変な状況の中、無事に生活することができました。余談ですが、2018年9月の北海道で起きた地震の際に出張で札幌に居ましたが、この体験がとても役に立ちました。その後、周りの方々の助けもあり、専門である光学イメージングを主な手法とした神経生理学の研究は概ね順調に進捗していききましたが、やはり放射線のコースに所属している以上、もう少し放射線に近い研究をするべきだと考え、MRIを用いた新しい神経活動イメージング法にチャレンジし、結果を出すことができました。この

成果が、今回の異動にも繋がっていると思われます。

私は、理学部物理学の学生だった頃には、神経生理学の研究をするとは全く思っておらず、大学院を出て基礎医学の研究室に所属していた頃には、保健学科の教員となりMRIを用いた研究をすることになるとは全く思っていませんでした。このように人生、最初に決めたレールに乗らなくても意外に楽しくやっていけるようです。最初から自分の人生を決める必要は全く無く、どんな状況でも楽しくやっていく道はあるよ、と学生の皆さんにお伝えして、ご挨拶とさせて頂きたいと思っています。これまで大変お世話になりました。

### 新任の先生のご挨拶

今年度に入り、本学科の画像診断学分野に新たに先生が就任されました。ご挨拶を頂戴しましたので、ご紹介いたします。

#### 画像診断学分野

教授 植田 琢也 先生



本年9月より東北大学保健学科の一員として迎えていただきました植田です。私は1994年に千葉大学を卒業後、千葉大学放射線科に入局し画像診断医となりました。2005年からは筑波大学附属病院、2007年からスタンフォード大学、その後聖路加国際病院・千葉メディカルセンターを経て、2018年1月より、東北大学病院放射線診断科に准教授として着任しておりますが、このたび2018年9月より保健学専攻画像診断学分野教授を拝命いたしました。

画像診断医として臨床画像の研究にとりくむ一方、数理分野の方々と共同研究を行っており、数理分野と医療分野の橋渡しをする協働研究を積極的に進めてきました。様々な優れた手法をもつ数理分野から医療の各分野に応用可能な手法を発掘し、医学と結びつけていくことで、医学の発展に貢献できればと考えています。仕事のこと、趣味のこと、皆様といつかゆっくりお話出来れば幸いです。よろしくお願ひ致します。

#### 老年・在宅看護学分野

助教 清水 恵 先生



平成30年10月より老年・在宅看護学分野に助教として着任いたしました清水と申します。私は、出身は静岡、大学は大阪で、臨床は東京

と転々としたのですが、博士後期課程を東北大学で修了いたしました。修了後看護専門学校で教員として1年、東北大学病院の臨床研究推進センター(CRIETO)で3年半勤務し、久しぶりに保健学科に戻ってまいりました。博士課程でお世話になった先生方とともに働けることを大変うれしく思っております。

博士課程は緩和ケア看護学分野でしたので、老年・在宅看護は一から学ばなくてはいけない分野ですが、親和性の高い両分野ですので、緩和ケア看護学で培った視点を生かしつつ、老年・在宅看護の教育、研究に貢献したいと思っております。

私は学部生時代、教員に、「看護つてとても素敵な仕事なんだ。」という感覚を持たせていただきました。臨床でもその感覚を持ち続けて働きました。私が教員を目指そうと思った原点はそこにあります。本学でも、授業、実習、研究を通してこの感覚が少しでも学生の皆さんに伝わるように努力していきたいと思ひます。

また、CRIETOでは、看護部の方々の看護研究の支援や支援体制の整備をしてきました。今後は保健学科の教員として、病院と保健学科が協働してさらに看護研究を進展させていくことに少しでも貢献したいと思ひます。皆様、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 第12回リトリート 大学院生研究発表会

平成31年1月12日(土)に第12回リトリート大学院生研究発表会が、星陵オーデトリウムで開催



されました。本発表会は、東北大学大学院医学系研究科の大学院生が、実行委員会を組織し、企画・運営の一切を行うイベントです。本年度は、約100題の演題が集まりました。その中で、分子内分泌学分野の博士後期課程1年の野呂英理香さんが「 $\beta$ 細胞におけるグルコース応答性転写因子ChREBPの機能制御因子の探索」という演題で、最優秀演題賞を受賞されました。おめでとうございます。



### 卒業研究発表会

平成30年度の卒業研究発表会が行われました。各専攻の担当教員よりご報告を承りましたので、ご紹介いたします。

#### 看護学専攻

##### ウイメンズヘルス看護学分野

助教 武石 陽子 先生

平成31年1月9日(水)に、平成30年度看護学専攻卒業研究発表会が行われましたのでご報告いたします。発表会では4題のEnglish発表を含む68演題が発表されました。研究テーマには次のようなものがあり、テーマも研究方法も多岐にわたりました。

老年・在宅看護学分野からは高齢者や認知症患者、在宅終末患者についてなど6題、緩和ケア看護学分野からは、レジリエンスや遺族に関する7題、がん看護学分野からは意思



決定や術後の生活についてなど9題、成人看護学分野からはデスクカンファレンスについてなど2題の発表がありました。地域保健学分野の4題はEnglish発表で、Zoonotic Diseasesやfourth-year nursing students についての研究などであり、公衆衛生看護学分野と地域システム看護学分野からは、健康寿命やロコモティブシンドローム、看護・医療職者の勤務に関する研究など10題、精神看護学分野からはセルフステイグマに関する研究など4題でした。また、産科看護学分野からは孫育てや不妊症についてなど3題、ウイメンズヘルス看護学分野からはコペアレンティングや妊娠・育児期の父親についてなど5題、小児看護学分野からは母子家庭や院内学級の子どもを対象とした研究など3題となりました。さらに、看護アセスメント学分野からは音楽や香りなどの自律神経への影響や、細胞レベルでの創傷治癒についての研究など11題、看護管理学分野からは看護師の精神的健康についてなど4題の発表がありました。

論文の投稿や大学院でのさらなる研究、臨床での研究成果の活用など、学生の今後に期待を抱く発表会となりました。



#### 放射線技術科学専攻

##### 医用物理学分野

教授 権田 幸祐 先生



平成30年12月4日(火)、星陵オーディトリウム講堂にてA、保健学科放射線技術科学専攻卒業研究発表会が開催されました。今年度は、本専攻の7つの分野の研究室に配属された学生36名とサイクロトロロンセンター(CYRIC)の研究室に配属された学生2名の合計38名が発表を行いました。



本専攻やCYRICは、X線(マンモグラフィやCT)、MRI、PET、蛍光など様々なモダリティを使い、イメージングや治療を中心とした研究を進めています。このような背景から本年度の卒研発表会では、「がん、動脈硬化症、認知症などの疾病のメカニズム解明、計測技術、画像診断技術」、「が



ん放射線治療技術」、「放射線治療行者の被曝軽減技術」、「死因究明を目的とした死亡時画像診断技術」など多岐に渡る研究領域の発表がありました。質疑応答では、多くの3年生が積極的に挙手し質問している頼もしい姿が見られ、とても活発な議論が行われました。

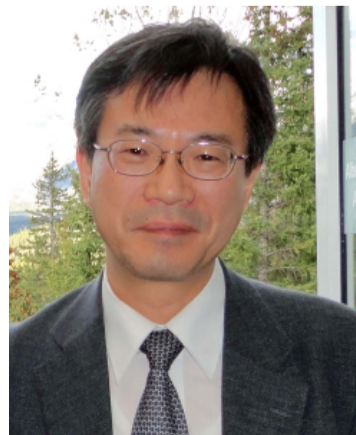


4年生の研究への熱意と、先生方の丁寧なご指導のシナジー効果によって、発表内容は年々高度になっています。実際、4年生の中には、卒業までの間に学会発表を行ったり、大学院進学後の国際会議や論文投稿へ繋がる成果を上げている学生も多々います。今年度から教育課程が改訂され、卒業研究はこれまでより半年早い3年生後期から開始されています。これにより4年生から3年生への研究内容の継承は、よりスムーズにかつ効果的に行われるでしょう。放射線技術科学専攻の各分野の特徴を活かした、さらなる研究成果の充実が期待されます。

#### 検査技術科学専攻

##### 臨床生理検査学分野

教授 三浦 昌人 先生



2018年11月29日(木)日に、平成30年度検査専攻卒業研究発表会が、星陵オーディトリウムで開催されました。

今年度は、保健学科検査技術科学専攻の研究室に配属された学生17名と、医学科や加齢医学研究所の研究室に配属された学生17名に加え、生理検査センターで研究を行った学生2名の、合計36名が発表を行いました。

発表内容は分子生物学・遺伝子改変動物の解析から生理学、疫学など、多岐にわたっていましたが、それぞれ最先端科学の一端を担う素晴らしい研究でした。学生の研究への熱意と、先生方の丁寧なご指導が相乗的に働いてこのような成果が得られたのだと思います。



本年度は、3演題ずつ12名の座長が、会場全体の雰囲気明るくし、発表会をテンポよく進行させました。

また、タイマー係やマイク係も学生自身が行う事で、学生たちが手作りで作り上げる素晴らしい発表会になったと思います。大変広い会場でしたが、これから卒業研究を開始する3年生や2年生の学生さんや、指導して下さった先生方で熱気にあふれていました。



一人あたりの持ち時間が10分間という短い時間でしたが、簡潔にまとめ、わかりやすく発表したのみならず、フロアからの数多くの質問を要領よく、的確に回答していたのが印象的でした。今回の研究経験や卒研発表会は、学生さんたちにとって、非常に有意義で貴重な、そして、今後の飛躍に必ず役立つと思います。

## ウェアセレモニー

今年度は、平成30年9月26日(水)に検査技術科学専攻のウェアセレモニーが行われました。代表を務めました学生さんの決意表明の言葉を紹介いたします。

### 検査技術科学専攻3年

菊池 雪誠



本日は、私たちのためにこのような式典を開いていただき、ありがとうございます。代表して御礼申し上げます。

私たちは、いよいよ始まる臨地実習に不安もありますが、それ以上に、この白衣に袖を通し、実際に病院で実習が行えることに、期待をもちています。

さて、まもなく臨地実習が始まりますが、その際に心がけたいことが三つあります。

一つ目は、「挨拶」です。実習中、私たちは一人の医療従事者、また社会人として扱われます。挨拶は必要最低限の礼儀であり、人間関係を円



滑にする上で重要です。「おはようございます」、「お疲れ様です」、「明日もよろしくお願いします」。積極的な挨拶で、日々の実習を気持ちよく行えるようにします。

二つ目は、「後始末」です。実習では、慣れないこと、初めて経験することも多く、ミスをして指導担当者の方々に迷惑をかけることもあると思います。それでも、担当の方の指示に従って、自らが対応、処理をして、他人への影響を最小限にするようにします。また、自分が使用した部屋や道具を清潔に保つことにもしっかりと取り組みます。

三つ目は、「感謝の気持ち」を忘れないことです。東北大学病院や市中病院の方々には、多忙な業務の時間をいいて、私たちの実習を受け入れていただいています。病院で実習できるとは、これまでの講義・実習の内容を実践できる貴重な経験としてとらえ、積極的に実習に取り組む姿勢を見せ、一つでも多くのことを学び、経験して感謝の気持ちを体現します。そし

て、最後に「ありがとうございました」と感謝の言葉で終えられるように取り組みます。

他にも、服装や態度などにも気を配り、東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻の学生として恥ずかしくないように取り組みます。

最後になりますが、今まで講義や実習でお世話になった先生方に、臨地実習後に成長した姿を見せることを誓い、決意表明とします。



## 保健学科設立15周年・保健学専攻設立10周年記念祝賀会

### ウイメンズヘルス看護学分野 助教 武石 陽子先生

11月23日(金)の祝日に、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻10周年・保健学科15周年記念式典が開催されました。出席者には



同窓生やこれまで教職に就かれていた先生方などが含まれ、86名もの出席がありました。式典は、星陵オーデトリウムで盛大にとりおこなわれました。

まずは、医学系研究科長・医学部長の五十嵐和彦先生の挨拶から始まり、副院長の張替秀郎先生、特任教授(元看護部長)の門間典子先生、診療技術部長の梁川功先生、検査部門技師長の藤巻慎一先生より、祝辞をいただきました。

続いて、保健学科長の菅原明先生



から保健学科の歩みを、保健学専攻長の齋藤春夫先生から保健学専攻の歩みをご説明いただきました。特別講演では東北大学プロボスト(副学長・理事)の青木孝文先生より「AIとデータの価値—オープンイノベーション時代の大学の役割—」と題し、青木先生の研究室である情報科学研究科計算機構成分野の研究成果をともし分りやすく講演していただきました。青木先生の気さくなお人柄がにじみ出た、とても楽しく、あつという間の1時間でした。

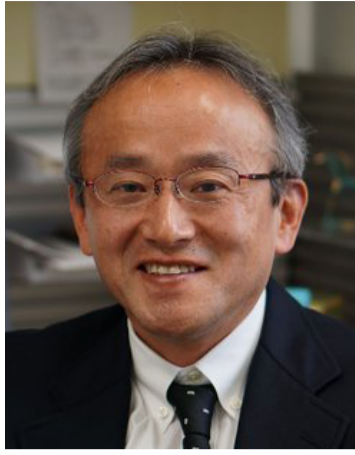


式典終了後は、1階のラウンジにて立食パーティーを兼ねた懇親会が行われました。冒頭には、平成28年度にご退官された進藤千代彦先生より、保健学科の立ち上げに奔走された当時のご経験談と併せてご挨拶をいただきました。お料理には、お刺身の舟盛りやワイン、日本酒などが並び、とても華やかなテーブルとなりました。ご参加いただいた皆さんでお腹いっぱいいただいても余るほどでしたが、最後は在校生の方々が研究室などに引き取ってくれ、式典も懇親会もお料理も、すべて問題

なく終了することができました。

この度の式典では、東北大学看護学部の友同窓会、東北大学保健学科同窓会からのご援助によって、開催することができました。この場を借りて、同窓生の皆様に心より御礼申し上げます。また、この式典は約1年前より、吉沢豊子先生、齋藤春夫先生、菅原明先生が中心となり、一期生である村崎昌洋さん、佐々木康之輔さん、高木清司さんの主導により企画されてきました。この場を借りて多くのご助言をいただきました。3名の先生方への感謝を申し上げます。1期生の3名の先生方には30周年、何十周年の時にもまたご尽力をお願いしたいと思います。その時には若い同窓生の皆さんにも、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。

医学系研究科長・医学部長  
五十嵐 和彦 先生



このたび、医学系研究科保健学専攻が設立10周年、ならびに医学部保健学科が設立15周年を迎えたことは、本研究科の教育研究の歩みの中でも大きな道標となりました。チーム医療の重要性が広く認識される中で、本医学系研究科および医学部は、医療系人材の養成を複合的かつ体系



的に進めている数少ない教育組織の一つとなっております。そして東北大学の研究第一の理念に則り、保健学専攻および保健学科においても、教員の研究成果をいち早く教育に反映するとともに、学部生・大学院生の研究活動への参加を通して主体的な学びの機会を提供し、探求力や解決力の涵養につなげていきます。さらに総合研究大学の特徴を活かし、他部局や他領域との連携も活発に進んでいます。設立以来このような活動を進めてきた教職員・学部生・大学院生の皆さんのご尽力により、医学系研究科保健学専攻・医学部保健学科は、教育研究の広がりでも深さでも、国内有数の組織に発展してきました。また、卒業生と修了生の皆様、社会の様々な場で指導的人材として活躍していることも、教職員一同の誇りとなっております。

一方、社会に目を転ずれば、多くの課題が未解決のまま残り、様々な新しい課題も浮かび上がっています。

人事異動

日本は既に高齢化社会となり、疾病構造も大きく変化しています。また社会保障費の増大など、医療を取り巻く環境は厳しさを増す一方です。このような時代に、問題をどう設定するのか、そしてどう解決していくのか、大学の力がまさに試されつつあると言えます。生命や病気に関する様々な発見を病院内外の医療にどのように実用化していくのか、情報科学や工学など異分野の技術や発見を医療や社会の改善に、どのようにつなげていくのか、総合大学に課された大きな課題です。その解決のためには、産学連携など、社会との協力を今以上に強化することも必要となります。次の10年に向けて、従来の保健学の枠を超えた挑戦が求められていると思われまます。イノベーションは常に境界から産まれるという言葉があります。保健学専攻および保健学科が新しい知をつくり社会に広げていく教育研究の場として、さらにイノベーションを生み出す学際的な場として、今後ますますご発展していくことを祈念いたします。

● 医用画像工学分野

准教授 小山内実 先生

● ウイメンズヘルス・周産期看護学分野

准教授 小山田信子 先生

● ウイメンズヘルス・周産期看護学分野

講師 佐藤眞理 先生

● 医用物理学分野

講師 北村成史 先生

● 医用画像工学分野

助教 市地慶 先生

● 画像診断学分野

教授 植田琢也 先生

● 老年・在宅看護学分野

助教 清水恵 先生

● 保健学科同窓会について

東北大学校友会(しゅうゆうかい)は、創立100周年を迎えた2007年に次の大学づくりの礎と

お知らせ

◆保健学科同窓会について  
東北大学校友会(しゅうゆうかい)は、創立100周年を迎えた2007年に次の大学づくりの礎と

編集後記

第21号も皆様のご協力の下、無事に発行することができました。

いつもながら、多くの写真は医学部広報室さんが撮影したのものを使用させていただきました。また、分子内分泌学分野の菅原教授のFBからも写真を提供していただきました。医学部広報室さん、菅原教授をはじめ、作成に関わっていただいた先生方、学生の皆さんに感謝いたします。

今年の夏の同窓会総会、および秋の保健学科設立15周年祝賀会で、多くの同窓生の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

長谷川大樹、平川奈津希、武石陽子  
西山真美

未来医療への22世紀基金ご支援のお願い

東北大学医学部・大学院医学系研究科では、2018年11月に「未来医療への22世紀基金」を設置いたしました。この基金は既設の「東北大学医学部教育研究支援基金」を発展継承させて新たに東北大学特定基金に設置し、次の100年に向けて長期的な視野に立った教育・研究の展開と未来医療の構築を目指した様々な活動を推進していくために活用してまいります。

引き続き、皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東北大学大学院医学系研究科長・医学部長 五十嵐和彦

【ご寄附の方法】

クレジットカード(VISA、MasterCard)・郵便振替・銀行振込をご利用いただけます。

お手続きはWeb申込フォームからお願いします。

◆東北大学医学部HP: <http://www.med.tohoku.ac.jp/>

◆東北大学基金HP: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/>

【お問合せ先】

東北大学医学部・医学系研究科経理課財務係

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2番1号

TEL 022-717-8011 FAX 022-717-8021

E-mail [med-kikin@med.tohoku.ac.jp](mailto:med-kikin@med.tohoku.ac.jp)